

第1回県南区域地域医療構想調整会議（合同会議） 議事要旨

- 1 日 時 令和7年11月18日（火） 午後6時から午後8時まで
- 2 場 所 オンライン会議
- 3 出席委員 委員18名中14名出席（代理出席者を含む。）

【大仙・仙北】

氏 名	役 職 等	氏 名	役 職 等
三 浦 俊 一	大曲仙北医師会長	伊 藤 良 正	市立角館総合病院長
星 野 良 平	市立田沢湖病院長	三 浦 康	大曲厚生医療センター病院長
佐 藤 幸 美	大曲中通病院長	寺 邑 敏 彦	花園病院長

【横手】

氏 名	役 職 等	氏 名	役 職 等
高 橋 辰	横手市医師会長	西 成 忍	西成医院 院長
丹 羽 誠	横手市病院管理者（前市立横手病院長）	小 野 剛	市立大森病院長
堀 口 聡	平鹿総合病院長		

【湯沢・雄勝】

氏 名	役 職 等	氏 名	役 職 等
小 野 崎 圭 助	湯沢市雄勝郡医師会長（有床診療所代表）	鎌 田 敦 志	町立羽後病院長
小 松 田 敦	雄勝中央病院長		

4 議事等

(1) 報告事項

- ① 病床数適正化支援事業について
- ② 秋田大学医学部附属病院におけるHCU病床の設置について
- ③ 雄勝中央病院における診療体制の変更について

【事務局】

（資料により説明）

※委員からの意見なし

(2) 協議事項

- ① 新たな地域医療構想の策定について

【事務局】

（資料により説明）

【市立角館総合病院長】

・再編・集約化を進めていくことは必要なことなので、これは県が主導的に進めていなくても各病院で必要なことだと十分認識していると思う。

・各病院が続けてやっていける状況ではないので、再編・集約化は良い悪いに関わらずそういう風になっていくと思う。

【大曲厚生医療センター病院長】

- ・大仙仙北地域の中においては市立角館総合病院、市立田沢湖病院、大曲中通病院と常日頃、一緒に議論しており、同じ方向を向いて協力していける体制にある。
- ・当院が主に急性期の役割を引き続き担っていくという方向性はほぼ出来上がっているかなというのが私の意見。
- ・本日も病院全体で病床が10床空いているかどうかという状況で、日々本当に綱渡りの状態で急性期医療に取り組んでいるという状況。
- ・一旦コロナなど起こってしまうと本当にもう病院がパンクしてしまう状況なので、大仙・仙北地域の中で協力しながら取り組んでいるという状況。
- ・また、横手、湯沢雄勝地域とはお互いに同じ二次医療圏の中で協力していける体制を維持していきたい。

【大曲中通病院長】

- ・この地域においては各病院お互いに連携してうまくいっている。
- ・今後、ある程度の救急の機能を持ちつつ、あとは慢性期や回復期を主体にやっていく可能性は高いと考えている。
- ・全く急性期をやめてしまうと不自由な面が出てくるのかなと考えている。

【横手市病院管理者】

- ・提供体制の限界は見えてくることは確かなので、機能をはっきりさせながら協議しましょうということとは明らかな方向性としてある。
- ・一方で職員を失う、あるいは地域の衰退を招く方向にも進みかねないという心配もあるので、十分時間をかけながら進めていかなければいけない。

【平鹿総合病院長】

- ・経営状況の悪化や、人材のリソースが地域からどんどん減っていく状況の中では、これまで通りの体制を維持するのは当然困難になることは間違いないので、速やかに有機的な連携を進めていくことは必要と考える。
- ・ただ、過度に効率的なものを求めてしまうと冗長性が失われてパンデミックなどに対応できなくなる恐れもあるのでそういったことを考えながら、進めていく必要がある。

【雄勝中央病院長】

- ・再編・集約化の必要性については皆さん共通の認識を持っていると思う。
- ・当院の産科や外科のように集約化についてはすでに現在進行形で進んでおり、人口が減少していることから、これは避けて通れない。
- ・再編を進める上で、経営母体が違うので、具体的にどうやっていくかは今後の課題。

【市立田沢湖病院長】

- ・急性期に関しては大曲厚生医療センターの方に集約する形でよろしいかと思う。

- ・大曲厚生医療センターに負担がかかりすぎている感じがあるので、高齢者救急などの包括期機能を当院でも診られるようになれば一番いいと考えている。
- ・当地域について2040年までは後期高齢者の人口があまり変わらないので、2040年あたりまでは地域の皆さんを診る病院としてやっていけると思っている。

【市立大森病院長】

- ・集約については皆さん必要性を感じている。
- ・再編とは言っても総論賛成・各論反対になりがちで進まないのが現実。2040年では遅いので、2035年ぐらいまでにはしっかりと体制を作れるように議論すべき。

【町立羽後病院長】

- ・当院は平鹿総合病院あるいは市立横手病院に患者を主に紹介しており、お世話になっている。
- ・拠点病院が複数あれば我々の選択肢が増えるし、患者にとっても近隣にあれば大きなメリットとなるので、現時点では複数あると非常に助かる。

【大曲仙北医師会長】

- ・病院がなくなる前に、開業医の数が非常に少なくなるのではないかなと私は想像している。実際に当地域でも、辞める意向を示している診療所もいくつかあり、今後さらに人口減も相まって進むと思う。
- ・そうなった段階で病院が残ってくれないと地域の医療が成り立たなくなってしまうと思っている。
- ・統合の問題は経営母体がバラバラで難しいので、経営のトップの方々の話し合いの中で県が意見を言ってもらえば、話し合いはスムーズに進むと思う。

【横手市医師会長】

- ・県南はすでに、大仙・仙北地域と横手地区で連携が進んでいるので、県の考える方向性として急性期拠点を大仙・仙北地域と湯沢・横手地域の二つに置くことはすごく良いと思う。
- ・病院の集約等は今後大事になってくるが、あまりがちと固めてしまうとうまく回らないことも出てくると思う。
- ・特に高度医療に関しては拠点病院に集約が必要だが、それ以外の日常医療の分野については、今まで通り各医療機関がある程度機能を残しつつ、集約していくところを今後5～10年で議論していかなければならないと感じた。
- ・当地域でも今後、診療所を辞めるといった先生も出てきている。開業医の減少傾向は紛れもない事実であるが、普段、診ている地域の方々に対して、高度医療、集中的な治療が必要になった時に適切な時期に適切なタイミングできっちりとそこを紹介できる流れを崩さないように、今後開業員でのネットワークを作って考える必要がある。

【湯沢市雄勝郡医師会長】

- ・ 集約・再編については必要なのは間違いないと思っている。当地区に関してはもう2030年、35年以内にはある程度確立しないと地域が成り立たないだろうと思っている。
- ・ 診療所医師は、検診事業等をたくさんもっており、病院がなくなるのと同じように、診療所もなくなっていくと地域の医療が守れなくなる。診療科の偏在もあるので、そういったところの再編も必要になってくる。
- ・ 我々だけで決めたことを、地域住民がすぐに了解するものでもないので、早めに地域住民にアナウンスをすることが集約を進める上で一番大事である。

【西成医院院長】

- ・ 2040年という区切りではなく、2030年、35年という5年ぐらいの区切りで進めていかないとかなり大変かなと思う。
- ・ 病院の機能が変わるということは地域住民にとっては非常に大事なことになるので、アナウンスをどこでどういう風にするかということがすごく大事になってくる。
- ・ 開業医について、高齢化も進んできて大変。特に在宅医療を含めて、各医療機関同士の連携というのは非常に大事になってくる。
- ・ 人口が減って、かなり加齢化になっても面積は変わらないので、在宅医療にしてもかなりの手間暇がかかるため、そういうことも見越して、診療所間で連携できるシステムを構築中である。
- ・ 病院の集約化について、県としてはどういう支援をしていただけるのか。

【県医務薬事課】

- ・ 協議資料14ページに記載のとおり、各区域ごとの将来の方向性を検討するに当たって、県から現状維持から再編・統合の場合等の複数案とそれぞれの案に対する評価を来年度、提示させていただく。
- ・ 再編等を進める上で必要となるハード整備の支援についても、今まで事例があることから、過去の事例を参考に検討していきたい。

【西成医院院長】

- ・ 各地域に応じた分析を詳しくしていただければありがたい。特に今までずっと見えてこなかった県央地域については、いずれかの機会に説明もしていただきたい。

【県医務薬事課長】

- ・ 県南地域において、急性期拠点病院を複数設置することについて、具体的な地域の枠組みについて意見をいただきたい。

【湯沢市雄勝郡医師会長】

- ・ 県南に関しては、複数設置には異論はない。おそらく、大曲厚生医療センターと平鹿総合病院の2つが急性期拠点病院となり、その周りを他の病院が支援していくという形

になるのではないかと思っている。

【西成医院院長】

- ・大仙・仙北地区は大曲厚生医療センターが中心になり、横手、湯沢・雄勝地区に関しては平鹿総合病院あるいは市立横手病院が急性期の部分を担うことになると思う。
- ・大仙・仙北地区と、横手、湯沢・雄勝地区の2つの地域に分かれるのではないかなと思う。

【市立角館総合病院長】

- ・皆さんの考えと同じで、大曲と横手に拠点病院を置く形が実情に合っていると思う。
- ・当院も急性期医療をやっているが、大曲厚生医療センターと機能分化をして、お互い良い経営ができるようにしていければと思っている。

【横手市病院管理者】

- ・私たちの病院でできる急性期の機能はしっかり果たしていきたいが、急性心筋梗塞や脳疾患などは平鹿総合病院にしっかり診ていただかなければならない。
- ・急性期拠点病院として平鹿総合病院の役割は当然あると思っており、県としてもそこを支援していただきたい。

【平鹿総合病院長】

- ・当然当院はそのつもりでやってきているが、病床も削減し、スケールメリットを出しにくい状況である。足りない部分は大曲や秋田市とも連携しながらやっていきたい。

【大曲厚生医療センター病院長】

- ・大仙・仙北地域の方向性はかなり出来上がっており、協力して続けていくことになる。
- ・消防本部・救急隊、秋田大学の高度救命救急センターと県南地域の連携をどうしていくか、特に高エネルギー外傷について大学へ直接送るのか、一旦県南で受けるかのということ等について、協力体制を構築していければと思っている。

【雄勝中央病院長】

- ・急性期病院は現状1つにするのではなく、県からの提案にあるように2つ、具体的には大曲厚生医療センターと平鹿総合病院に拠点になってもらいたいと思う。

【大曲中通病院長】

- ・非常に広大な地域なので、大曲地区と横手地区から1つずつ急性期の病院を選んで、それ以外の病院はそこをサポートする、あるいは各病院で得意なところを残して頑張っていくやり方でいいのではないかなと思う。

【大曲仙北医師会長】

- ・横手地域については、平鹿総合病院と市立横手病院が合体して新たなものを形成する

といったことまで考えているのか。

【横手市病院管理者】

・急性期拠点病院は平鹿総合病院にお願いするのが妥当だと思っているが、市立横手病院は今できる機能を果たす。合体の話は全く別の次元の話であり、今お話しはないと思っている。

【横手市医師会長】

・この圏域の中に2箇所、高度急性期の拠点病院があるというのはとても良いことだと思う。それ以外の急性期疾患への対応については、診療科別等のように病院の先生方がうまく棲み分けをしていく必要があるので、そのへんを県の考えとすりあわせしながら、スピード感を持ってやっていただきたい。

・開業医に関しても、病院がどのように棲み分けされるかに従ってネットワークを作り、協力していきたい。

②その他

【大曲厚生医療センター病院長】

・年末年始の救急医療に関して、アンケート調査の結果、一番の課題だったのは発熱患者、軽症患者があまりに多くて、救急搬送の患者まで手が回らないという課題をどこの病院でも抱えていたことである。

・病院、行政、医師会、診療所が協力し合って、年末年始の救急医療に対して対策を取っていければと思っている。

・来年の1月にも同じアンケートをしていただきたい。

【雄勝中央病院長】

・地域の基幹病院の年末年始の負担が非常に大きいというのは、雄勝も同じ。

・医師会からは、医療従事者の手当などをどうするかが問題だと言われているので、県も含めて行政の方から援助や要請があればいいのかなと思う。

【市立大森病院長】

・病院にかなり負担がかかることは明らかなので、開業医の先生たちもそこに関わっていただいた方がいいのではないかなと思う。

・県から秋田県医師会などに要請を出すことを検討いただきたい。

【大曲仙北医師会長】

・大曲仙北医師会の中では、三浦康先生からのお話を受け、なるべく年末年始を長く開けてほしいと会員にお話している。当医師会のホームページなどで、年末年始に開いているクリニックの一覧を掲載し、大曲厚生医療センターの負担を少なくするように考えている。

・休みの日に診療所を開くためには、従業員に出勤をお願いしなければならず難しい面があり、仮に9連休のためだけに仮設会場を作った場合、採算が合うのかという費用面の問題もあり、現段階でそういう話にはなっていない。

【横手市医師会長】

・横手市では以前、休日当番診療制を病院出向き型などで試みたが、使い慣れない電子カルテの問題や、入院が必要になった時の負担、費用対効果などを総合して考えると、果たして本当に病院のためになっているのかという議論があり、現在はストップしている。

・市民の方は救急となると地域の病院に駆け込んでしまう点も課題と考える。

・まずは、各クリニックが年末年始のどの期間、何時から何時まで開いていて、どのような検査・治療までやるのかをしっかりと調査し、市民に周知するのが今すぐやるべきことかなと思い、準備をしている。

・休日の当番医制について、例えば診療所が休みの日に開くと医師の他、従業員も出てこなければならず、出勤してきた次の日は休まなければならない。その費用も払わなければならない、実施が難しい状況にある。

・休日救急医療という観点からそんなことは言っていられないことは十々承知しているが、なかなかそこを全ての会員が理解してくれるかどうかは難しい。

【湯沢市雄勝郡医師会長】

・従業員が正月に出勤してくれることへのインセンティブを出してあげないとハードルが高い。湯沢市では若干お金を出してくれそうな感じがあるので、私は1日か2日開けようかなと思っているが、他に開けてくれる開業医は限られている。

・正月などの休日に開けるには東北厚生局への手続きが必要で、発熱外来として開けてもお腹が痛い患者を診てはいけないといった医療法の制約もあり、ハードルは高いが、病院の負担を減らすために検討していきたい。

【平鹿総合病院長】

・将来的に診療所も2040年には半減するという話もあり、なかなかそういう体制も厳しくなると思うので、一次救急をやる施設を県と医師会でやっていくような体制をいずれは組まないとなかなか限界が来るのではないかと考えている。